

[04_02]九州大学大型計算機センター広報 : 4(2)

<https://doi.org/10.15017/1467975>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 4 (2), pp.1-26, 1971-04-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

随 想

福岡教育大学連絡所 柳原弘毅

九州大学大型計算機センターの方々のお陰で、どうやら自分でプログラムが何とか書けるようになったと思ったら、今度は、福岡教育大学にも前々からの念願であったFACOM 270-20が購入された。同型の計算機を使っている福岡大学の御好意で、いいオペレーターを推薦してもらうことが出来、全く感謝している。事務局の努力により、部屋の改装も早急になされ、45年12月12日(土)に機械到着。46年1月16日(土)ささやかな開室式を挙げた。その時は、御多忙にもかかわらず九州大学大型計算機センター、福岡大学計算機室の方々の御列席を得、有難く感謝している。その後、計算機使用の経験者が喜んで講師を引き受けてくれ、何回かの講習会も無事開くことができた。

さて、計算機室を作ってから一番感じたことは、利用者の皆さんが一度でプログラムが通らないことに、非常に抵抗を感じていることである。小型機でも、翻訳プログラムが軽いミスは指摘して、これを直してから計算するようにならなければ本当でないように思う。不完全な翻訳プログラムでミスを直されると、変な風に直されても此も困るので、現状では致し方ないと思うが、翻訳プログラムがもっと進むべきであるように思う。文科系の人達でも、気軽に計算機が使えるようになるには、是非そうならなければいけないように思われる。われわれが計算機の習いはじめの時は「一度でプログラムを通そうなどと考えないで、気軽に計算機にかけて見よ」「安あがりて済むように机上デバッグをしっかりとやれ」とか、全く反対のことを言われながら、必要に迫られて強引に押して押しまくって来たけれども、コンピューター人口が増えて来ると、そうばかりも言って居れないような気がして来た。

もう一つ感じて居ることは、TSSは現状では使いものにならないように思える。不特定多数の人が、居ながらにして大型計算機が使えるという着想はいいことであるので、是非実用化してもらいたい。プライベートファイルを活用してTSSは使用すべきであるなどなどの話もあるが、自由に通信回線を利用して、勝手なプログラムで自由に使えるようにならなければならないと思う。そのためには、ワークエリアを取りすぎるけれども、これからプログラムを何行送るのか、データを何行送るのかをはじめに送ってから、ワークエリアを決めるようにしたらどうだろうか。あるいは、勿体ないなどと言わないで、一行は80桁取って、一つのワークエリアに入る行数を決定してシステムを作ってみてはどうだろうか。これらの事はもう遠の昔に検討済のことと思うが、素人がつまらないことを考えて居る。高価な磁心記憶に頼らなくても、廉価な記憶素子が開発されるでしょうし、記憶容量おかまいなしのTSSの開発等というものには考えられないものではないか。それが出来ないから現状があるのでしょうし。そもそも、一定の制限の下に最大の効果をあげるよう開発を進めるのが本筋でしょう。

教育工学に計算機を使うとなると、矢張りTSSの世話にならなければならないと思われるので、是非、一日も早く完全な形のTSSが完成されることを切に望む次第である。